２０２４年４月２８日　復活節　第５主日　聖書と典礼

■第 31 回　み言葉の分かち合い

●第１朗読　使徒言行録９・26～３１

サウロ（後にパウロと名乗る）は当時、サドカイ派に属しておりキリスト信者を迫害していた。古代の都市シリアのダマスコは、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教が中心の都市であり、ここへ行くことにした。この途上でイエスと出会い回心したサウロはキリスト信者となる。サウロがダマスコに到着すると、キリスト教徒たちは疑いの目で彼を見ていたが、バルナバはサウロを受け入れ、使徒たちに紹介した。

サウロはダマスコにおいて、イエスが救い主であることを大胆に宣べ伝えている姿を見たユダヤ人たちは、以前のサウロとは違っていることから、彼を殺そうと考えた。

これを知ったイエスの弟子たちは、「夜陰（やいん）に乗じて、サウロを連れ出し、籠に入れて、町の城壁づたいに吊り下ろした。」（使徒言行録 9・25）そして、ダマスコから脱出を図ったサウロは、エルサレムに着くと主のことを大胆に宣べ伝え、ユダヤ、ガリラヤ、サマリアにある教会には聖霊が働き、基礎が固まり発展し、信者の数が増えた。

●第２朗読　１ヨハネの手紙３・18～２４

人は口先や言葉のみではなく、行動（態度）によって誠実さを示す。

神の掟を守り、神の御心に適うことを行い、神の前に疾（やま）しいことがなければ、願いごとは何でも適（かな）えられるので、疾しいことは、赦しの秘蹟で罪を赦していただく。

神の掟は、互いに愛し合うこと（互いに喜び合うこと）。この掟を守る人の内には神が留まります。これは聖霊が働いていると分かります。

●福音書朗読　ヨハネ１５・１～８

神は農夫（農夫は自分で作った作物を大切にします）、イエスはぶどうの木、私たちはぶどうの枝。枝がぶどうの木に結びついていれば豊かな実を付けます。

ぶどうの木を喩（たと）え話しで使った理由として、ワインはぶどうから出来ており、ぶどうは季節ごとに成長し、豊かな実をつけます。これと同様に、弟子たちも年を経るごとに経験を積み重ねて成長し、主の御業を現す器になると考えたからでしょう。

「私たちが神と聖霊で繋がって、聖書のみ言葉がいつもその人にあるなら、望むものを何でも求めれば適えられます。」（ヨハネ 15・7）このみ言葉との出会いで、著者の MyBible シリーズは誕生しました

著者　蒲池　明憲